M125 FMトランスミッターAP　取り扱い説明書

このたびは、本製品をお買い求めいただき、ありがとうございます。取り扱い説明書を最後までお読みの上、ご使用ください。また、お読みになった後もこの取り扱い説明書を大切に保管してください。

使用上の注意

- ●必ずお車を安全な場所に停車してから、機器の接続を行ってください。
- ●受信感度が悪くノイズが入る場合には周波数を変えてください。
- ●ラジオ受信用のポールアンテナが付いているお車では、アンテナを伸ばした状態でご使用ください。
- ●FMラジオ放送の干渉ノイズや混信によるノイズを避ける為に、ご使用になる地域のFMラジオの周波数から0.2MHz以上離れた周波数でご使用ください。
- ●接続機器のイコライザー機能、低音/高音調整、ラウドネスコントロール等の音質調整により、再生音質が大きく変化する場合があります。適度に調整してご使用ください。
- ●本製品と接続する機器でFMトランスミッターが内蔵されている機種の場合には、それらの機器のFMトランスミッター出力をオフにしてください。
- ●車内に本製品以外のFM発信可能な機器がある場合には、電波の干渉によるノイズを避ける為に、その機器のFMトランスミッター出力をオフにしてください。
- ●車内で本製品以外の機器でFMトランスミッター出力を行う場合には、電波の干渉によるノイズを避ける為に、本製品の電源をオフにしてください。
- ●iPhone・iPodと接続する際には、Dockコネクターの差し込み口を確認した上で接続を行ってください。また、コネクタを抜く際にはコネクタ及び差し込み口の破損を防ぐ為、ゆっくりと引き抜いてください。
- ●本製品をご使用中に万が一、iPhone・iPod本体の故障や収録データの消去、またはバッテリーパックの破損等が発生した場合、当社では一切その責任・保証は負いかねます。
- ●コードは強く引っ張らないようにしてください。ø3.5mmケーブルを抜く場合もコードを持って引き抜かないようにしてください。ø3.5mmケーブルの破損やコード内部での断線、接触不良の原因となります。
- ●コード部分は結ばないようにしてください。コード内部の断線や接触不良の原因、またノイズの発生原因になります。
- ●本製品は日本国内専用です。海外でご使用した場合にその国の法律に抵触し、罰せられる場合もあります。

お取り付け・ご使用の前に必ずお読みください

警告・注意事項を良くお読みの上、正しくご使用ください。誤ったご使用は死亡事故などの原因となります。

⚠ 警告

- ●運転者が運転中に本製品の操作や接続した各機器の操作を行うのは大変危険ですのでおやめください。
- ●本製品を運転操作や視界の妨げ、エアバッグ付近或いはエアバッグ作動の妨げになる場所への取付け、ご使用、放置はおやめください。
- ●本製品は自動車用です。シガーソケット電源以外でのご使用はおやめください。本製品及び各接続機器の故障・破損の原因になります。
- ●本製品の破損、故障、変形、コードの断線等不具合がある場合には、ご使用をおやめください。
- ●本製品にたたきつけるような強いショックを与えないでください。本製品の故障、破損の原因になります。
- ●濡れた手でのご使用や、水気及びホコリが付着したままのご使用は本製品並びに各接続機器の故障、破損の原因になります。
- ●本製品の分解、改造、加工はおやめください。各接続機器の故障・破損の原因になります。これらが起因する各接続機器のトラブルに関して、当社は責任を負いかねます。

⚠ 注意

- ●本製品は12V/24Vマイナスアース車専用品です。
- ●本製品は、無線局の免許を必要としない微弱電波を使用した製品です。アンテナの種類や形状/設置環境（車の場合、車種およびアンテナが設置されている場所）/周囲環境（車の場合、走行環境を含む）/混信などにより、本製品から出力されたFM電波をFMカーステレオなどが正常に受信できない状態になることがあります。その場合、ノイズ/音のひずみ/音の途切れ/受信不能状態などが発生する場合があります。
- ●本製品は日本国内仕様です。海外でFMトランスミッター機能を使用した場合、その国の法律などに抵触するおそれがありますので、ご使用にならないでください。
- ●本製品は微弱電波、FM放送などの電波を妨害しないように極めて低い出力で電波を送信しますので、近くのFMラジオでしか聞くことはできません。
- ●カーラジオは車種により、アンテナの位置が異なります。車の取扱説明書や、ディーラーにお問い合わせいただき、アンテナの位置を確認してください。
- ●本製品を使用中にFMトランスミッター内蔵のテレビやカーナビを同時にご使用すると、カーステレオからの音声にノイズが入る場合があります。その際にはテレビ内蔵のトランスミッターをOFFにしてからご使用ください。
- ●本製品をご使用する時には、車のバッテリー保護のために必ずエンジンをかけた状態で使用してください。
- ●キーを抜いても、シガーソケットの電源がオフにならない車種は、バッテリー上がりのおそれがありますので、降車時に本製品をシガーソケットから抜いてください。
- ●シガーソケット接続時には、本製品を奥まで差し込まれていることをご確認ください。また、走行中の振動により、本製品が外れる場合があります。ご注意ください。
- ●本製品内部のヒューズが破損した時には、車のヒューズボックスにある全てのヒューズに破損がないかを確認してください。また、車の機能（ヘッドライト、空冷ファンなど）に支障がないことを確認くしてださい。
- ●煙が出る・焦げくさい臭いがする等、異常の兆候が見られる時は直ちにご使用をおやめください。
- ●電源プラグに指定外の端子や金属を接触させたり、水気やホコリを付着させないでください。
- ●本製品のご使用中によるメモリーダイヤルやデータの消失や破損、通信不能等の付随的保証は一切負いかねます。
- ●コードが細い為、乱暴にあつかわないでください。断線する場合があります。
- ●設置場所や気象条件によって、音質が悪くなる場合があります。
- ●極端な高温または、低温の状況下では、液晶画面が黒くなり表示が見えなくなる場合がございますが、故障ではありません。常温になりますと液晶表示は元に戻ります。
- ●設置場所により、車両や接続機器からのノイズが入ることがあります。その際には、本製品の向きや周波数を変更してご使用ください。
- ●エアコンルーバーに取り付けた場合、オートスイング機能は作動させないでください。エアコンルーバー破損の原因になります。
- ●エアコン吹き出し口を閉めた状態でご使用ください。暖房などを出した状態でのiPhone・iPodの接続は故障の原因となります。
- ●金属ステーを使用して取り付けた場合、車種により取り付け部分が多少変色したり、取り付け跡が残る場合があります。
- ●金属ステーをご使用してグローブボックスに取り付けた場合、開閉の際はiPhone・iPodを一旦外してから行ってください。iPhone・iPodやを本製品に収納したまま炎天下の車内に放置すると、故障したり、熱や荷重で本体が変形するおそがあります。
- ●適合外の機種を無理に収納すると、本製品及びiPhone・iPodの破損の原因になります。また、形状によっては収納できない（または不安定になる）場合がございます。そのような場合にはご使用をおやめください。脱落等の原因になります。
- ●悪路走行をする場合は、iPhone・iPodを置かないでください。
- ●極端に高温や低温になる場所への取り付けはおやめください。
- ●粘着テープをご使用して取り付ける場合、布生地や曲面のきつい場所への取り付けはお避けください。脱落等の原因になります。
- ●落としたり、叩いたり、強いショックを与えないでください。故障・破損の原因になります。
- **●上記の警告、注意に従わずご使用された場合、誤ったご使用をされた際等の事故破損等につきましては、当社では一切その責任は負いかねます。**

各部名称

付属品

- ・ø3.5mm ケーブル
- 大、中、小 3タイプのエアコンクリップ付き
- ・小クリップ ×2ヶ
- ・中クリップ ×2ヶ
- ・大クリップ ×2ヶ

本製品の機能

iPhoneのみの機能

- ●運転をしならがハンズフリー通話が出来ます。（iPhone内蔵のマイクを使用）FMトランスミッターで音楽を聴いている最中に着信が入った場合、自動的に通話に切り替わり、相手の声がカーステレオのスピーカーから聞こえます。

iPhone・iPodの機能

- ●FMトランスミッター機能によりFM電波で音声を送信して自動車のオーディオ機器からiPhone・iPodの音声が聴けます。
- ※クイックスキャン機能で4つの固定周波数から選んでチューニングができます。
- ※手動で0.1MHzピッチで141chフルバンドの調節も可能です。
- ●Dockコネクタ接続で充電が出来ます。
- ●回転してiPhone・iPodを横向きにできます。

その他の機器での機能

- ●ø3.5mmジャックにその他の機器のイヤホン端子をつなげることで、FMトランスミッター機能がご使用になれます。
- ※ただし、この際は、Dockコネクタからの出力に比べて、出力レベルが著しく低下します。
- ●USB充電端子（5V1A）に、お手持ちのUSBケーブルを接続する事で充電が出来ます。

本製品の取付方法

取り付ける前に

（図1）

クリップ固定部
クリップ

●本製品とiPhone･iPodの取り付け位置を決め、横向きに回転させても使用上問題ないか必ずご確認ください。
●運転操作の妨げやエアバッグ作動時に影響がないように取り付けてください。
※特に運転席側の吹き出し口に取り付ける際は、ウィンカーレバー等に干渉しない事を確認して取り付けてください。
●取り付け作業を行う際は、エアコンのスイッチをOFFにしてください。
●金属ステーで貼り付ける場合、布、革（合成皮革含む）、ザラ付いた面、曲面のきつい場所には取り付けできません。
●本製品の取り付け、ご使用が困難な場合、運転の妨げになる場合は無理に取り付けないでください。脱落などにより、事故や破損の原因になります。

本体取り付け方法

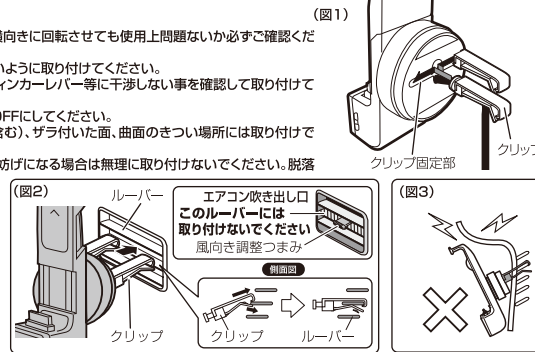
●本製品は、＜エアコン吹き出し口取り付け＞＜金属ステー取り付け＞の2タイプの取り付け方ができます。

エアコン吹き出し口に取り付ける場合

●エアコン吹き出し口が閉められないタイプのエアコン吹き出し口には取り付け出来ません。
●付属の小クリップを使用して、固定部に取り付けてください。（図1）
●車のエアコン送風口にクリップを差し込み固定させます。（図2）
※小クリップでは固定できない場合は、中クリップか、大クリップをご使用ください。クリップを外す場合は（図4）をご確認ください
※（図3）の様に製品が傾きすぎたり、ヘッドが当たってしまうなどの場合は、エアコン吹き出し口への取り付けを止めて、金属ステーでの取り付けにしてください。
●風向き調節つまみのあるルーバーへの取り付けは、避けてください。（図2）

（図2）

ルーバー
エアコン吹き出し口
このルーバーには取り付けないでください
風向き調整つまみ
側面図
クリップ
クリップ
ルーバー

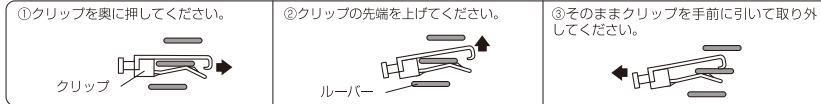
（図3）

（図4）＜クリップの取り外し方法＞

●作業を始める前に
○必ずルーバーを固定してください。
○乱暴に扱わないでください。
○収納物をすべて取り出してください。
○製品本体をクリップから取り外して、ルーバーにクリップのみが付いている状態にしてください。

①クリップを奥に押してください。

クリップ

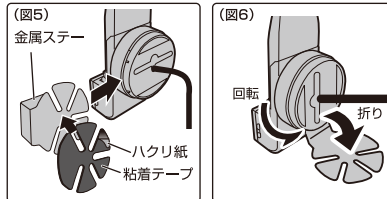
②クリップの先端を上げてください。

③そのままクリップを手前に引いて取り外してください。

※ルーバーの形状・材質によっては、キズがつく場合がありますのでご注意ください。
※ルーバーに装着した状態で、本体をクリップから取り外しにくい場合は、そのまま本体をつけたまま作業してください。無理に取り外そうとすると、本製品及びルーバーを破損する恐れがあります。

金属ステーで取り付ける場合

●あらかじめ、お車の取り付け場所の汚れを、中性洗剤等を用いて落としてください。取り付け場所が乾燥した後、以下の手順でお取り付けください。
●粘着テープのハクリ紙を剥がして金属ステーに貼り付けます。
●本体背面の差し込み部に金属ステーを差し込んでください。（図5）
●iPhone･iPodの収納･取り出しに支障がない場所を選び、取り付け場所の傾きに合わせて取り付けステーを折り曲げてください。その際、本体の角度が垂直もしくは少し後ろに傾く程度に取り付けステーの曲げを調節してください。（図6）
●粘着テープのハクリ紙を剥がしてしっかりと貼り付けてください。
※取り付けは車内温度が低い状態で行ってください。
※本体取り付け後は粘着テープの粘着力を得るため、24時間放置してからご使用ください。また、貼り直しは粘着力が低下しますのでお避けください。

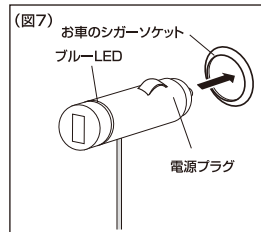
（図5）

（図6）

電源プラグの差し込み

●エンジンOFFの状態で、お車のシガーソケット内のゴミ、灰等をよく取り除いてください。汚れたまま電源プラグを差し込むと接触不良の原因になります。
●本体の電源プラグ部分をお車のシガーソケットに差し込んでください。振動等で抜け落ちることの無いよう奥までしっかり差し込んでください。（図7）
●お車のエンジンをかけると（キーをACCまたはONにすると）、電源プラグのリング部がブルーに光り、通電していることを確認できます。（図7）
●シガーソケットに電源ソケットを差した状態で、本製品を左右に回転させないでください、回転角度を変える場合は、下記の方法に従って電源プラグを抜き、再度シガーソケットに差し直してください。

（図7）

電源プラグの取り外し

●電源プラグを脱着する際には、必ず根元をしっかり持って抜いてください。
※シガーソケットに対し必ず水平にゆっくり抜いてください。回転させたり、斜めにして、無理に抜くと破損の原因になります。

使用方法

■iPhone･iPodをDockコネクタに接続

●iPhone･iPodを接続する際は、下図の手順に沿って接続してください。（図8）
●iPhone･iPodを脱着する際は、必ず両手で行ってください、一方の手で本製品を固定しながらiPhone･iPodを持って作業を行ってください。片方の手のみで作業を行うと負担がかかりすぎて、粘着テープがはがれたりクリップがルーバーから外れてしまい脱落の原因となります。

（図7）

①iPhone･iPodの外部機器接続端子にDockコネクターをしっかりと差し込みます。

②上下に高さの調節をします。

③ゴムローラー部分でiPhone･iPodのヘッド部を固定します。

④iPhone･iPodがしっかり固定しているか確認してください。

※iPhone･iPodの電池の劣化や、電池容量が完全に空の状態の場合、充電ができない場合がございます。
※iPhoneに接続した際「このアクセサリーはiPhoneでは動作しません。」と表示が出ますが、問題なくご使用できます。
※一部機種ではホルダー上部での固定は出来ません。

使用方法

■iPhoneでハンズフリー機能を使用（カーラジオのスピーカーで相手の音声を聞く場合）

●iPhoneのイヤホンジャックに付属のø3.5mmケーブルのプラグを差し込み、もう片側のプラグを本体のø3.5mmジャックに差し込みます。（図9）
●FM電波干渉などにより、カーラジオから音質が悪い場合はiPhoneの通話や画面でスピーカーを選択してiPhoneの音声出力での会話をお試しください。

（図9）

■チャンネルの設定

●電源プラグをシガーソケットに差し込んだ状態でお車のエンジンをかけて、周波数表示部が点灯している状態にします。周波数表示部に現在設定されている周波数が表示されます。（図10）
●本製品の本体にある「Q.S.（クイックスキャン）」ボタンを押して、4種類（77.3/81.1/88.8/89.1MHz）の周波数から、地域のFM局に干渉しない周波数に合わせてください。
●本製品の「UP」「DOWN」ボタンを押すことで送信周波数をより細かく設定できます。ご使用になる地域のＦＭ局との干渉を避ける為、既存のＦＭ局の周波数より±0.2MHz以上離した周波数を設定してください。
※送信周波数は、76.0MHzから90.0MHzの間で、0.1MHz刻みで細かく設定可能です。
●カーオーディオのＦＭラジオチューナーを、本製品で設定した周波数に合わせてください。
※カーオーディオで、使用する受信チャンネルをメモリーしておけば、次回以降使用する際に便利です。（ラストチャンネルメモリー機能）
●接続した機器の電源を入れて、音楽を再生してください。
※本製品を接続して再生を行っている場合、iPhone･iPodでの音量の調節は出来ません。ご使用になるＦＭラジオ（カーオーディオ）のボリュームにて音量を調節してください。

（図10）

周波数液晶表示
左
右

クイックスキャンボタンを押すと次の順で周波数が切り替わります。
M1･･･77.3MHz
M2･･･81.1MHz
M3･･･88.8MHz
M4･･･89.1MHz

「UP」「DOWN」ボタンを押すことで0.1MHz刻みで細かく設定できます。
「UP」
「DOWN」

■音楽の停止

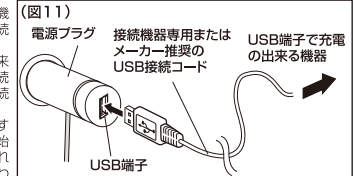
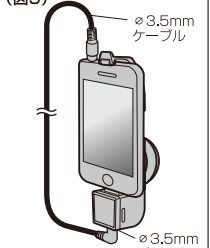
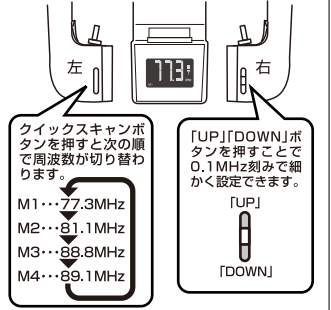
●接続機器の再生を停止してください。車のキーををＯＦＦにして本製品の電源が切れた状態でも、接続機器の再生は停止しませんのでご注意ください。
●本製品の製品の電源を切る場合は車のキーをOFFにしてください。
※キーを抜いても、シガーソケットの電源がオフにならない車種は、バッテリー上がりのおそれがありますので、降車時に本製品をシガーソケットから抜いてください。
※エンジンを始動し本製品がＯＮになった場合、前回ご使用していた周波数で起動します。（ラストチャンネルメモリー機能）

■iPhoneで着信通話を取る

●iPhoneに着信通話があると、音楽は一時停止し、iPhoneの着信音がなります。iPhoneの応答ボタンを押すと相手の声がカーステレオのスピーカーから聞こえて、車を運転しながらハンズフリーで通話が出来ます。（iPhone内蔵のマイクを使用）
●通話を終了すると、音楽が再開されます。
※ハンズフリーで通話中、エコー音がする場合は、iPhoneのスクリーンの向きを変えてみるか、iPhone側のボリュームを最大に上げつつ、カーステレオのボリュームをエコー音が聞こえなくなるまで下げてください。

ＵＳＢ接続による電源供給について

●電源プラグのUSB端子より、5V/600mAの電源供給が可能です。（図11）
●USB機器を接続し、電源を供給しながら（充電しながら）FMトランスミッターをご使用することができます。
※各機器とUSB接続する際には、接続機器に付属、もしくは各機器推奨の接続コードが必要になります。
※ご使用する機器により、電源供給が出来る機器とできない機器があります。接続する前に、接続機器の説明書（USB接続に関する項目）をご確認ください。
●本製品側面のUSB出力端子とご使用する機器とを接続し、お車のエンジンを始動し、電源プラグからの電源が供給されますとUSB端子による電源供給が行われます。

（図11）

ヒューズの交換方法

●本体の電源が入らない場合は、ヒューズが切れている場合がございます。電源プラグ部の先端キャップを外して、ヒューズを確認していただき、ヒューズがきれている場合は市販の新しい新しいヒューズに変更してください。（図12）

（図12）